

## SFRC舗装試験施工 作業手順など再確認

佐藤渡辺 関東支店は3月14日、千葉県八千代市の機械センターで、独自の縦取り機と増厚機を一体化した機械編成による縦取り工法でSFRC（鋼繊維補強コンクリート）舗装の試験施工を実施し、作業手順や施工体制、品質などを再確認した。NEXCO東日本関東支社発注の「東京外環自動車道幸魂橋（内回り）SFRC舗装工事」の施工に備えたもので、供用中の高速道路での同工法による施工は、同支店では初の試みとなる。



縦取り機の下で接着剤塗布とコンクリート打設を同時に行

用した供用中の高速道路での施工は今回が初めてであることから試験施工を実施。本番同様に約400m離れた位置からタイヤショベル6台で材料を運搬し、SFRCを10m打設して作業手順などを確認した。監理技術者の長嶋耕氏は「高速道路の限られた範囲での施工となるため、規制帯の外へ出ないよう安全への意識付けを徹底すること」を試験施工の目的に挙げ、「模索しながらの試験施工だったが、本施工までに確認できた修正点を1つずつ解決し、万全の体制で工事に望みたい」と振り返った。現場代理人を務める中原克敏氏は「綿密に計画・準備を進めてきたつもりだったが、やはり机上の計画と実際の施工とは相違する面が多々あることに気づかされた。今回の改善点をもとに、さらに細部にわたって計画を練り直し、スムーズな施工をしたい」と本番に向け意欲を示した。

同工事は、東京外環自動車道幸魂橋の第2橋（約300m）と第4橋（約330m）のアスファルト舗装の一部を強度の高いSFRC（鋼繊維補強コンクリート）に置き換え、橋梁の耐久性を向上させ、損傷を抑制・防止することを目的としている。施工には縦取り工法を採用し、一般車両の通行を確保しながら1車線規制で工事を実施する。同工法は縦取り機の直下のスペースを利用して鋼床版へ接着剤を塗布しながらSFRCを打設できるため、効率的かつ安全な施工が可能だ。



監理技術者の長嶋氏（左）と現場代理人の中原氏

